

アリラン峠を越えていく

—在日コリアン音楽の今 in とよなか



2019年10月19日(土)
13時～16時30分 (12時30分開場)

特別協力



参加費無料・要申込

- 1部 映像上映「アリラン峠を越えていく」(75分)
- 2部 安聖民さん、趙倫子さん パンソリ公演 (15分)
- 3部 出演者、監修者によるトークショー (75分)
安聖民さん (パンソリ唱者)、趙倫子さん (鼓手)
高正子さん (神戸大学 非常勤講師)、寺田吉孝さん (国立民族学博物館 教授)
聞き手: 松本康之 (とよなか国際交流協会 理事長)

在日コリアン音楽の多様性とその背景にある歴史や、はざままで生きてきた在日コリアン音楽家たちの生きざまと情感を描いた映像作品『アリラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽—』の上映とパンソリ演奏、トークショー。盛りだくさんの3時間半です。ぜひお越しください。

会場: すてっぷホール 定員: 150名
(とよなか男女共同参画推進センター)
豊中市玉井町1-1-1-601 (阪急豊中駅前エトレ豊中5階)

【申込み・問合せ】公益財団法人とよなか国際交流協会(指定管理者)
電話:06-6843-4343 E-mail:atoms@a.zaq.jp
【主催】とよなか国際交流センター(豊中市玉井町1-1-1-601 エトレ豊中6階)



出演者紹介



安聖民(アン ソンミン):パンソリ唱者

大阪市生野区生まれ。1998年 韓国留学。2002年 漢陽大学音楽大学院国楽科修士課程修了。重要無形文化財第5号パンソリ「水宮歌」技能保有者・南海星に師事し、2016年履修者認定。2013年 第40回南原春香国楽大典・名唱部にて審査員特別賞受賞。2016年「水宮歌」、2019年「興甫歌」完唱公演。



趙倫子(チョ リュンチャ):鼓手

大阪府大東市生まれ。韓国東亜大学校日語日文学科修士課程修了。2008年より民族文化牌マダンにて活動。楽士はもとより、創作パンソリやマダン劇の脚本をてがける。



高正子(コオ チョンジャ):神戸大学 非常勤講師

大阪生まれの在日 2 世、在日コリアンの生活文化を研究。「『食』に集う街—大阪コリアンタウンの生成と変遷』『食から見る異文化理解』河合利光編著、時潮社、2009、PP131-146 他。



寺田吉孝(テラダ ヨシタカ):国立民族学博物館 教授

ワシントン大学音楽部(民族音楽学科)博士課程修了。アジアの伝統音楽と欧米のアジア系移民社会の音楽実践の研究に従事している。映像音響メディアにも興味をもち、番組の制作を行いながら音楽研究や伝統音楽の保全・活性化に果たしうる役割を検討している。制作番組に、『大阪のエイサー— 思いの交わる場』(2003年)、『怒—大阪浪速の太鼓集団』(2010年)など。

パンソリ(판소리)とは

パンソリは、唱者と鼓手の二人で奏でられる、楽譜がない口承伝統芸能である。パンソリの「パン(판)」は多くの人々が集まる場所を、「ソリ(소리)」は音を意味している。2003年にユネスコの無形文化遺産に登録された。

パンソリの世界を満喫するためのポイントは「声を楽しむ」「表情を楽しみ、場面を想像する」「チュイムセ(掛け声)を入れる」等…。唱者と観客との一体感が生まれるのも魅力のひとつである。

上映作品について

アリラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽—

時間:75分 製作年:2018年 撮影時期:2014年~2016年

撮影・製作:国立民族学博物館



在日コリアンは、朝鮮半島の植民地時代(1910年~45年)に日本に移住した人々とその子孫たち。戦後、朝鮮半島は南北に分断され、朝鮮戦争などを経て今も続いている。日本、大韓民国(韓国)、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)による政治的対立は、在日コリアンの生活に大きな影を落としてきた。この映画では、朝鮮半島に伝わる民族音楽を継承する音楽家や在日の思いを伝える3組(安聖民、李政美、金剛山歌劇団)の音楽家の活動に焦点を当て、在日コリアン音楽の多様性を紹介する。また、コミュニティで受け継がれてきた歴史の記憶、三つの国のはざまに生きる在日コリアンたちの苦難と希望の象徴であるアリラン峠を越えていこうとする音楽家たちの生き様と情感が描かれている。(解説:高正子、寺田吉孝)